

CONTENTS

- 復興支援活動報告 2
がんばろう東北
がんばろう熊本・九州
 講演録
 防災士/防災プロデューサー
 佐藤 一男 氏 4
 三陸鉄道株式会社
 前代表取締役社長 望月 正彦 氏 6
- ICT 基礎講座 Close-Up 8
 ICT 活用による多様な働き方の実現
- トップは語る 12
 日本システム株式会社
 代表取締役社長 西田 秀利 氏
- HUMAN HUMAN 14
 株式会社感性リサーチ
 代表取締役社長 黒川 伊保子 氏
- Family's Information 15
- デジタルフットコンテスト入選作品 16
- 支部見聞録(北海道支部) 18
 From 北海道

Family 2016 373号

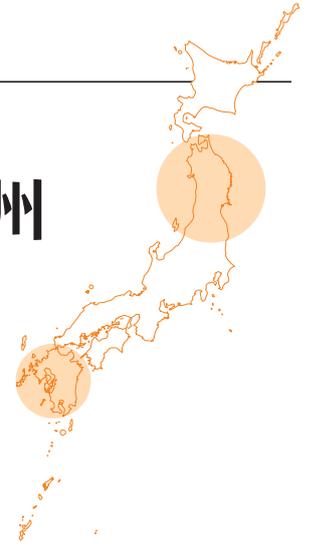


表紙のことば (世界の橋シリーズ)
 秩父公園橋(ちちぶこうえんはし)
 埼玉県秩父市

秩父市街地から「秩父ミュージックパーク」へのアクセスルート。県道208号線の荒川に架かる全長530メートルの斜張橋が「秩父公園橋」だ。その姿がハープのように見えることから「秩父ハープ橋」とも呼ばれ親しまれている。連なる山々とまち並み、目の前に見える川が織りなす景色を楽しむほか、主塔の下で手を叩くと「鳴き龍現象」が体験できる。

FUJITSUファミリー会 復興支援活動報告

がんばろう東北 がんばろう熊本・九州



FUJITSUファミリー会では、活動方針の一つに「社会貢献活動に継続的に取り組み、社会的責任を果たす」を掲げ、東日本大震災や熊本地震への復興活動など、継続的な社会貢献活動を推進しています。

「平成28年熊本地震」義援金贈呈



FUJITSUファミリー会 下條泰利会長(左)と熊本日日新聞社 河村邦比児社長(右)。義援金100万円、募金73,460円を贈呈

FUJITSUファミリー会は「平成28年熊本地震」への復興支援として、義援金を送ることを理事会で決定。6月30日、FUJITSUファミリー会下條泰利会長、仮屋博九州支部長が、熊本日日新聞社、RKK熊本放送、熊本善意銀行の3社で開設された「熊本地震救援金」へ義援金を贈呈しました。

下條会長は「ファミリー会として社会的責任について考える中で今回の義援金贈呈を決定しました。義援金を

渡して終わりとは思っていません。継続していくことが大事だと感じています」とご挨拶されました。

また、熊本日日新聞社の川村邦比児社長からは、「義援金をいただいたことを新聞に掲載し、このようにたくさんの方々から心配していただいていることをお伝えしたい。復興にいつまでかかるか見通しがたたない中で継続的な活動をとっていただけるのはありがたいことです」とお言葉をいただきました。

下條会長、仮屋九州支部長は、その後、熊本日日新聞社内内の新聞博物館を訪問。緊急企画展として鉛活字が散乱するなど被災したままの状態で開催されている展示物を見学しました。続いて熊本城や益城町を訪問し、被災状況を視察しました。



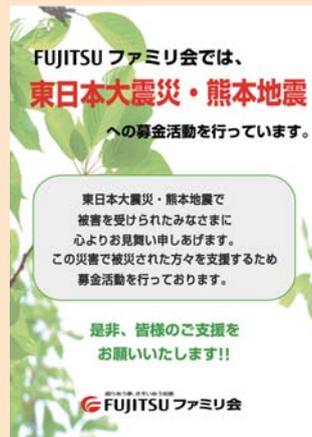
緊急企画展「恐怖の夜から復興へ向けて 4/14、16 熊本地震」



上：2度の震度7を観測した益城町を視察
下：散乱した鉛活字(新聞博物館)

ファミリー会 募金活動

FUJITSUファミリー会では、東日本大震災・熊本地震で被災された方々を支援するために、全国11支部で募金活動を行っています。これまでの会員の皆様の心温まるご支援・ご協力ありがとうございました。引き続き皆様のご支援をよろしくお願いたします。



東北支部 2016年度 地域活性サマーフォーラム

2016年7月12日、仙台サンプラザ(仙台市宮城野区)において、「2016年度地域活性サマーフォーラム～東日本大震災から5年 東北からの発信、ふるさと復興～」が開催されました。本フォーラムは、震災復興の風化を防ぐべく、被災地からのメッセージを発信し続けるとともに、被災地の復興へ向けた取り組みへの理解を深めていただく機会として始まり、今年で3回目の開催となります。当日は、東北支部の会員様のみならず、北海道支部、関東支部、北陸支部、九州支部からもご参加をいただき、134名の方がご来場されました。

はじめに、東北支部 小野木克之支部長より開会にあたり、「震災から5年が経過し、復旧が進み新しいまちができつつある地域がある一方で、未だに15万5千人もの方々

が避難生活を余儀なくされています。復旧復興の地域格差が広がり、課題は山積しておりますが、震災の風化や風評被害などの風にあらがうためにも、このような機会を通じて、これからの被災地・東北からのメッセージを、積極的に発信していかなければなりません。それぞれの地域特性を生かしながら、活性化できるよう、交流を深めていきたい」とご挨拶をいただきました。

特別講演1では、東日本大震災から5年が経過し、地方創生、交流人口拡大など「日本の復興モデル」を目指す仙台市の副市長、伊藤敬幹氏より「東日本大震災から5年～仙台市の復興と現状～」と題して講演をいただきました。

特別講演2では、震災を後世に伝える「桜ライン311」を立ち上げ、防災

士・防災プロデューサーとして熊本をはじめ全国で活動中の佐藤一男氏より「万が一に向け企業が備えておくべきこと～災害と防災を後世に確実に伝える～」と題して講演をいただきました。(次頁に講演録を掲載)

レセプションにも多くの方が参加され、盛況のうちに閉会しました。



小野木東北支部長の挨拶で開会



仙台市の伊藤副市長の講演



「高田スマイルフェス」のパネルも



レセプションでは東北の酒が振る舞われた